

令和6年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	教育委員会事務局
日 時	令和6年(2024年)4月17日(水) 14:00~14:50
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、江島副知事、大杉副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 教育長、教育次長、教育次長、教育総務課長、教職員課長、高校教育課長、幼小中教育課長、児童生徒室長、特別支援教育課長、人権教育課長、生涯学習課長、図書館長、保健体育課長

発言者	発言概要
総務部長	教職員の時間外在校等時間を減らしていくため、DXを具体的にどのように進めていくのか。
教職員課長	例えば、県立高校で試験の採点システムを導入した。選択式の問題は自動で採点し、記述式の問題も各生徒の解答を並べて採点でき、また生徒ごとの成績の分析などもできるので、現場からは「採点業務の負担が減った。非常に使いやすく、軽減効果がある」という評判。今年度は答案を個人のタブレットに返却する取組を行う予定で、事務負担軽減だけでなく個人情報管理の面でもメリットがある。このような実績が県立学校であるが、市町にまで広げるには費用面の課題がある。その他、県教委と県立学校や市町教委との紙のやりとりを電子化するなど、業務改善のワーキンググループを作って進めていきたい。
総合企画部長	中学校の特別支援学級から、特別支援学校でなく高等学校に進学する生徒が多くなってきた理由は何か。
特別支援教育課長	知的障害のない、自閉症・情緒障害学級の生徒は、知的障害特別支援学校高等部の対象ではないので、高等学校に進むことになるが、近年自閉症・情緒障害学級の在籍者数が増加している現状もある。
総合企画部長	北部振興の観点から言うと、子どもが地域にいる、地域に子どもの声が聞こえていることはとても大事。各学校の魅力をどのように作っていくとされているのか。
高校教育課長	昨年度の「北の近江振興高校生サミット」では、高校生が自分の課題を持って1年間研究に取り組み、よい発表をしてくれた。このように、高校生が地域の課題を自分で考え、発表するような学習活動が魅力化につながる。こういう学習の場、発表の場があることが大事であり、それを聞いた中学生が「あの学校で学びたい」と思うような学校になっていけば、と考えている。
知事	次回以降、地元の中学生にサミットに参加してもらって聞いてほしい。進学先の候補を見せることにもなる。
大杉副知事	昨年度から申し上げていることだが、教育委員会は財政にもっと強く主張すべきである。これは今年も申し上げておきたい。また女性の役割が固定化しないように。今回、女性課長がゼロなのは寂しい。教育委員会全体として改めてお願いしたいのは、部局を越えた子ども政策全体への目配り。昨年度象徴的だったのが不登校への取組で、フリースクールを初めて訪ねた教員が「子ども政策はこういうことをやってたのか」と気づきがあり、その逆方向もあった。教育委員会と子ども政策は同じ方向で取り組むこと。もう一点、民間の巻き込みもさらに進めていこう。民間企業の話も聞く、「地域の良さを子どもに知ってもらいたい」「卒業後も地域に残ってほしい」と考えている。民間企業に色んなかたちで協力してもらえよう、機会を作ることを大事にしたい。
教育長	最後にラーケーションについては、何か新しい制度をつくるより、今できることをしっかり伝えることが大事なのではないか。現状は堅い運用をしているが実は制度上はできる、ということもある。
生涯学習課長	先日も、子ども若者部の部次長と意見交換を行ったところ。やりとりを定期的にしていきたい。フリースクールについては、本日の定例記者会見でも質問があり、記者の関心は高い。ひとつ共有したい話として、フリースクールに通う子どもの状況を見ようという思いが学校でも高まり、それはよいことなのだが、各先生がごぞってフリースクールに電話して次々押しかけるのは困る、という声もある。フリースクールの実態把握もしながら、どういう連携がよいかは考えていきたい。ラーケーションは東近江市で独自に取り組むと聞いており、情報共有してまいりたい。
江島副知事	読書活動は非常に重要。学校司書の配置率を現状75%から100%になるよう目指すのか。
生涯学習課長	配置率75%だが、掛け持ちされたり、非常勤で時間勤務の方もいる。
江島副知事	学校司書は資格が必要なのか。
生涯学習課長	一定以上の学級規模の学校に配置される司書教諭とは異なり、学校司書は特に資格は不要で、教員や司書資格に限定されない。例えば地域で読書活動をされている方など、様々な方が担っている。
江島副知事	読書活動は量と質の両方とも大事。読書が好きな子どもを増やす、という幼小中教育課の目標も是非達成を目指してほしい。期待している。
幼小中教育課長	大人の発信が大事である。読書好きな人の声を子どもに届けて、本を手取るきっかけに。協議会では実践事例を学校間で共有しながら、更にお互いが気軽に相談できるよう、人間関係のつながりを太くして活性化させたい。
図書館長	子どもの読書にとって、学校図書館は重要な役割を担っている。単に子どもに本を渡すだけでなく、学校での授業にも使えて良い影響があるということを実感してもらえないと長くは続かない。今年度設置したサポートセンターには学校図書指導主事の教員がいるので、学校司書の経験が長いベテランの司書と連携して、様々な点から学校に伝えてまいりたい。
江島副知事	先週県立図書館に行ったら、エレベーター修理が終わったのか、書庫の本が借りられてよかった。図書館は知の拠点であり、大事にしたい。
教育次長	「笑顔あふれる学校づくり」を進めるために働き方改革をどう進めていくか。DXの推進としてまだやれるところはたくさんあるが、予算の制約もある。すぐにできることは学校にも取り組んでもらうが、我々だけで何ともならないことは相談したい。教員確保の面でも、以前は「数より質」を大事にして採用していたこともあったが、現場では臨時講師が不足している状況であり、正規化を図るためにも、まずはたくさんの方に受験してもらって優秀な教員が確保できるよう努力してまいりたい。

知事

「子ども子ども子ども」の中心的な役割を果たすのは教育委員会。これまでから、教育については相当な時間をかけて議論して大きな決断をしたし、今後もするつもり。県民、議会に対しても説明責任を果たして丁寧に説明すればご理解いただける、そういう環境が醸成されつつあるので、これまでできなかった大きな課題についても先送りせずに取り組もう。

教職員の定数についてはしっかり議論したいので、予算が決まる時期よりも早めに、どこがテーマになるか前広に協議してほしい。あわせて、教職員のメンタルヘルスが気になっており、どういことをすればリカバリーできるのか、という視点で考えたい。

高校教育課のグローバル人材の育成は大事で、伸ばしていきたい。ただし、公教育が扱うのはそうした一部の生徒だけではないので、そこへの目配りという意味で、入試改革が重要。早めに情報提供を打ち出し、説明責任を果たしていこう。あわせて私立学校との連携を、人材交流も含めて進めてほしい。

不登校については、プランに基づく具体の取組が進むように頑張っていこう。

特別支援教育については、昨年度に新設という決断をしたので、どの場所にどんな学校を作るのか、皆さんに示していきたい。また医療的ケアが必要な児童の通学や学びの保障をどうするのか、これは大きな課題であり可能性でもある。ここにこそ光を見出すような、そういう取組につなげたい。

人権教育について、子どもの声を聴くことはとても大事。是非、聴くだけに終わらず、行動につながるような人権教育を指向したい。

「こどもとしょかん」については、サポートセンターも立ち上げたし、学校図書館の充実を今年度の目玉にしたいと考えている。学校司書の配置も良いし、市町の図書館や移動図書館なども連携して。

保健体育課については、国スポ障スポのレガシーの柱となる所属。部活動の地域移行も含めて、生徒のスポーツへの親しみが増すよう、レガシーを政策化してほしい。

そして何より、「笑顔あふれる学校づくり」をすすめる教育委員会が暗くはない。笑顔あふれる教育委員会となるよう、教育委員会事務局の働き方改革が進むよう、リーダーの皆さんに努めてほしい。良いことばかりではないと思うが、問題が起きたときは良くする可能性だと捉えて頑張っていこう。